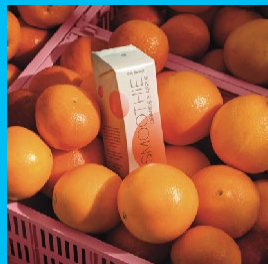
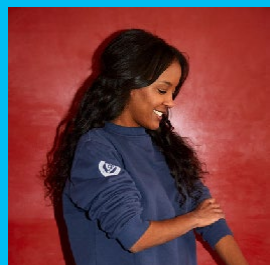
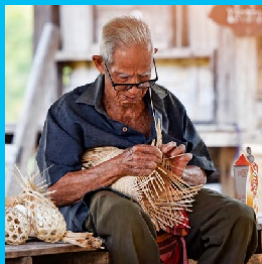


サステナビリティ

レポート FY25



CEOからのメッセージ

環境リスクが深刻化する中、増加し続ける世界人口を支える食料供給は、ますます複雑な課題となっています。最近、世界経済フォーラム（WEF）は、異常気象現象、生物多様性の損失、生態系の崩壊、地球システムの危機的変化を、最も危険で長期的な世界的リスクと認定しました。自然資源の不足と汚染も上位10位以内のリスクに入っています¹。これらはいずれも、世界の食品システムにとって重大な脅威です。WEFは1月に、これらのリスクに適切に対処すれば、持続可能性の価値を高め、持続可能な成長²を後押しすることも可能であることを、同時に強調しています。

テトラパックもまた、リスク管理と価値創出を、サステナビリティにおける2つの不可欠な要素として認識しています。私たちは、自社の事業活動およびバリューチェーン全体を通じて、食品、人々、そして地球を守ることに全力で取り組んでいます。これらの優先事項は、回復力のある食品システムの強化、気候変動の低減と適応、お客様、パートナーおよび社会への価値提供の指針となります。2025年に刷新されたテトラパックのダブルマテリアリティアセスメントは、資材への影響、リスクおよび可能性の特定と管理の指針であり続け、テトラパックの活動がこのアセスメントに基づき、測定値を数値化し、長期的な価値創出と一致していることを保証します。

食品システム

気候変動による異常気象現象や不安定な政情は、強靱な食品システムとそれを支えるインフラ構築を早急に実現しなければならないことを示しています。テトラパックが定める4つの食品システムの方針である、食品の入手可能性、食品ロスと廃棄、新しい食料資源、より持続可能な酪農、は相互に関連し合い、テトラパックが最大限に貢献できる分野に注力していきます。

未だに23億人が安全で栄養のある食品³を入手できない状況において、テトラパックは食品の品質と安全性を守り、保存期間を延長し、食品の廃棄を削減するために自社の技術を活用することに力を注ぎ続けます。2025年には、世界中のお客様への支援を通じて、700億リットル以上の食品がテトラパッ

クの紙容器で提供され、1,050万トンの食品がテトラパックのソリューションで加工されました。また、テトラパックのソリューションが提供した食品および飲料の紙容器は、1,740億個でした。これらの販売額は2.6兆ユーロと推定され、毎日多くの人々に提供されています。これらの中には、学校給食プログラムを通じた52か国における6,800万人の子どもたちへの栄養価の高い飲料が含まれています。テトラパックは他にも、お客様へのデイリーハブの支援を通じ、89,200戸の小規模酪農を支援しています。このシステムは、正規の市場に生乳を卸すことを可能にし、彼らの所得補償の強化に役立っています。複雑な構造の課題への対応で、最も重要なのは連携です。テトラパックはこの認識の上に立ち、連携の強化を進めています。2025年に、COP30で署名された新しい連携の覚書を通して、国連工業開発機関（UNIDO）とのパートナーシップを更新し、加工処理、流通、保管、包装など、食品バリューチェーンの「隠れた中間層」の協力を強化しました。テトラパックの長期戦略の中心は、イノベーションです。2025年に、テトラパックは積極的に買収や戦略的投資を進めましたが、これは新しい食料資源や代替タンパク質の開発への投資です。フランス、ショレにプロダクトディベロップメントセンター（PDC）、タイ、バンコクにカスタマーイノベーションセンター（CIC）、スウェーデン、カールスハムンに新食品技術開発センター（TDC）が開設されました。新しいTDCおよび世界12拠点のPDCと6拠点のCICを有し、お客様に持続可能な成長と価値を提供する製品・プロセスを事業規模で展開するために、必要な体制の強化に継続的に投資しています。

循環型経済

包装の第一の目的は、傷みややすい商品を保護することですが、テトラパックの場合はそれだけにとどまりません。紙容器の素材を限りなく使い続けられるように、リサイクルを前提としたデザイン、使用後の回収とリサイクルの方法など、紙容器が地球に及ぼすGHG排出量の削減に向け、狭義な目的から広義な目的に対応を広げています。テトラパックは、2025年に、新しい紙容器の研究・開発、産業化に約1億ユーロを投資しました。さらに、回収とリサイクルのインフラ構築のため、世界各地域に4,200万ユーロを投資しました。テトラパックは、今後もパートナー企業や政策立案者と連携し、製品設計の改善、効果的な制度・法規制の整備、および再生材需要の拡大を組み合わせることで、高度に機能するリサイクルバリューチェーンの構築を支援していきます。その背景には、テトラパックの紙容器が高品質な素材で構成されているという特長があります。これには紙繊維だけでなく、ポリマー層やアルミ層も含まれており、いずれの素材も飲用後においても価値を維持しています。リサイクルによって、これらの素材を回収し、新たな用途へ再利用することが可能となるため、バージン資源への依存の低減につながります。また、紙容器に使用される短繊維と長繊維の組み合わせは、高度な繊維用途において高い価値を有しています。さらに、一般に「polyAl（ポリアル）」と呼ばれる紙繊維以外の複合素材においても、輸送用クレートやパレット、その他の物流ソリューションなど、耐久性と付加価値の高い製品へと再生することが可能です。

このような事例は、循環型バリューチェーンの実現に向けて、polyAlリサイクルのさらなる拡大が重要であることを示しています。循環型の原理をテトラパックの製品ラインナップに適用することで、お客様に価値を提供することができます。たとえば、テトラパックのアセットヘルスモニタリングソリューションでは、部品や装置を継続して監視することで、製造ラインの耐用年数の延長、効率、コストパフォーマンス、オペレーショナルレジリエンスの改善に貢献しています。これにより、お客様は交換の適切な時期を知ることができ、無駄なコストを削減できます。

気候と自然

気候変動と自然破壊への対応は、テトラパックの事業とリーダーシップにとって明確な優先事項です。テトラパックは、2025年に、自社の事業におけるGHGを56%削減し、バリューチェーン全体では2019年をベースライン⁴として、34%削減しました。テトラパックの現場の再生可能エネルギーは、電力で98%に達します。テトラパックは、科学的根拠に基づく目標イニシアチブ（SBTi）に承認された目標に基づき、2030年までに自社の事業で排出量のネットゼロを達成する目標に向かって着実に歩みを進めています。同時に、テトラパックの容器包装ソリューションは、食品システム全体の排出量削減で重要な役割を果たします。ライフサイクルアセスメントによると、ペットボトルなど、主に石油由来の他の包装容器と比較して、紙容器は気候変動を軽減することができます。紙容器はほとんどの部分が繊維ベースで作られ、傷みやすい食品を守り常温流通を可能にしています。冷蔵をしなくても食品を安全に保てることで、冷蔵インフラの制約がある地域でも、安全で栄養価の高い食品を供給することができます。これは翻って、食品ロスと廃棄、それに関連する排出量の削減に貢献することも意味します。テトラパックは、気候と自然が互いに深く結びついていることを認識し、2025年には、気候および自然に関するリスクと機会を統合的に評価する初のアセスメントを実施しました。

この評価結果を踏まえ、2024年に策定した「自然に関するアプローチ（Approach to Nature）」の枠組みを見直しました。同枠組みには、自然損失の停止と回復、生態系の再生、水資源の安定確保に重点を置いた定量的な目標が含まれています。さらに、2025年には、最新の科学的知見との整合性を継続的に確保するとともに、長期的に最も大きなインパクトが期待される取り組みを優先できるよう、本枠組みを一層強化しました。

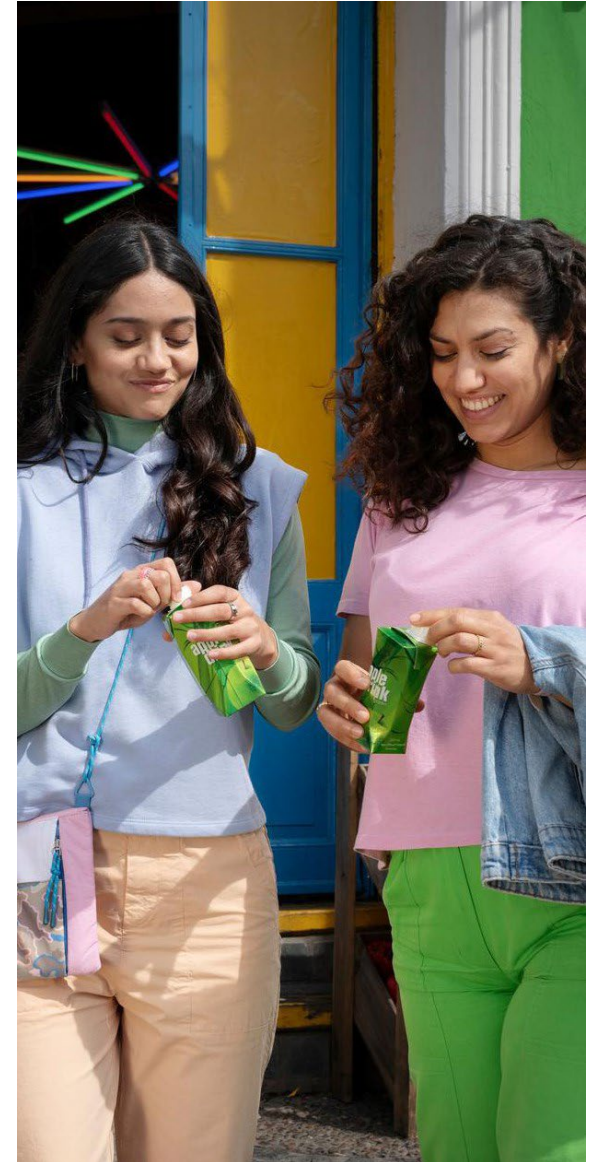
社会的持続可能性

フードチェーンは人に依存していることから、テトラパックは自社の事業、バリューチェーン、地域社会全体での人権保護に取り組んでいます。明確な期待値、デューデリジェンス、継続的な改善に支えられた、人々を最優先にするテトラパックのアプローチは変わりません。テトラパックは、バリューチェーン全体で人権デューデリジェンスアプローチの強化、優先順位の影響の見直しを通して、目標とKPIを持つ測定フレームワークを構築しました。「Join us in protecting the planet（地球を守る活動への参加）」イニシアチブを通して、テトラパックでは、サプライヤーが働く現場での人権尊重の強化や自然保護と気候変動に対する目標を達成できるように支援しています。これらのパートナーシップは確実に前進していくために不可欠です。2025年1月以降、テトラパックでは全従業員を対象に年間1日の有給ボランティア休暇を導入しました。また、2025年には、継続的な安全対策の推進により、報告される事故発生率合計は、ベースラインの2022年比で25%低減されました。さらに、職場環境に関する社内調査の結果は、2023年と比較して10.8ポイント向上しました。

食品から始める未来

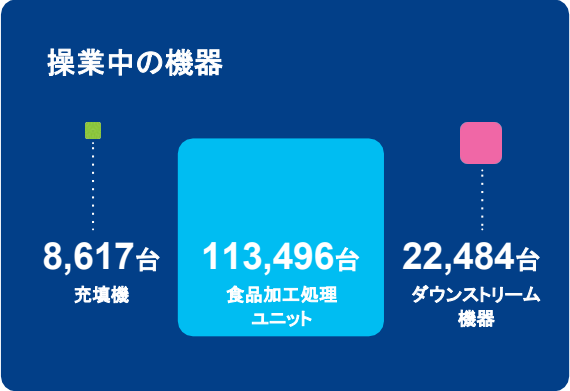
お客様、サプライヤー、パートナーの皆様、そして従業員の皆さんの、日頃からのご支援、ご協力、そして信頼に心より感謝申し上げます。レジリエントな食品システムの構築には、多様なステークホルダーによる協働、着実な実行力、そして継続的なリーダーシップが不可欠です。なぜなら、食は人々の暮らしと幸福を支える根幹であり、守り続けるべき大切な基盤だからです。この信念こそが、テトラパックのパーパスとあらゆる事業活動の根底にあります。そして、テトラパックは、食品を安全にどこでも入手可能にすることを約束します。そして大切なもの - 食品、人々、地球を守ります。

Adolfo Orive、アドルフ・オリベ
テトラパック、社長兼最高経営責任者



会社概要

数字で見る
テトラパック



テトラパックについて

テトラパックは食品を安全にどこでも入手可能にします。

この目的のために、テトラパックは、製品の試作やレシビのテストから、加工処理、充填、包装、流通、サービス、さらにその先を目指す高度な食品製造システムを提供します。お客様やサプライヤーとの協力、そして世界中の24,000人の従業員による献身的な活動を通じて、160以上の国々の何億もの人々のために、食の持続可能性を守ります。テトラパックは、食品を安全にどこでも入手可能にすることを約束します。そして、大切なものを包んでいます - 食品、人々、地球を守ります。このパーパスを達成するために、私たちは取り組んでいます。

テトラパックは、シデル、デラバルとともにテトララバルグループの一員です。グループの全員が、効率の良い食品の製造、包装、流通の技術に積極的に取り組んでいます。詳細は、テトララバルの年次報告書とウェブサイトをご覧ください。

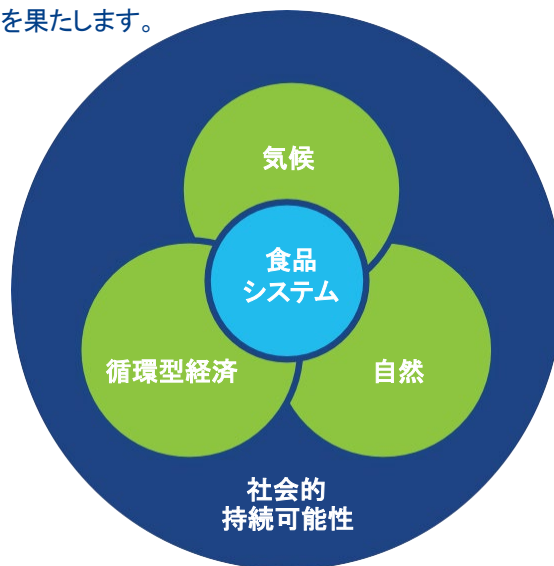
テトラパックの持続可能性へのアプローチ

テトラパックは、食品を安全にどこでも入手可能にすることを約束します。
そして大切なもの - 食品、人々、地球 - を守るという役割を果たします。

製品開発やレシピのテストから、加工、充填、包装、物流、さらには各種サービスに至るまで、先進的な食品システム全体を視野に入れた、トータルシステムアプローチを推進しています。人口増加に伴う食料需要への対応、自然資源の保全、気候変動への対策など、相互に関連するさまざまな課題に直面する今日において、テトラパックのサステナビリティ・アジェンダは、企業としての進化の方向性と重点的に取り組むべき領域を示す指針となっています。

また、このサステナビリティ・アジェンダが持つ相互関連性を踏まえ、テトラパックは低炭素、循環型経済の実現に貢献するソリューションを通じて、持続可能性への転換を推進するとともに、バリューチェーン全体にわたるサステナビリティ・パフォーマンスの向上を目指しています。

さらに、持続可能性は人々と地球環境の双方に価値をもたらすべきであると考えています。そのため、テトラパックは、お客様および農業・食品サプライチェーンに対する責任を重く受け止め、サステナビリティを事業の中核に組み込むことで、すべてのステークホルダーへの価値創出に取り組んでいます。



テトラパックの
サステナビリティ・アジェンダ

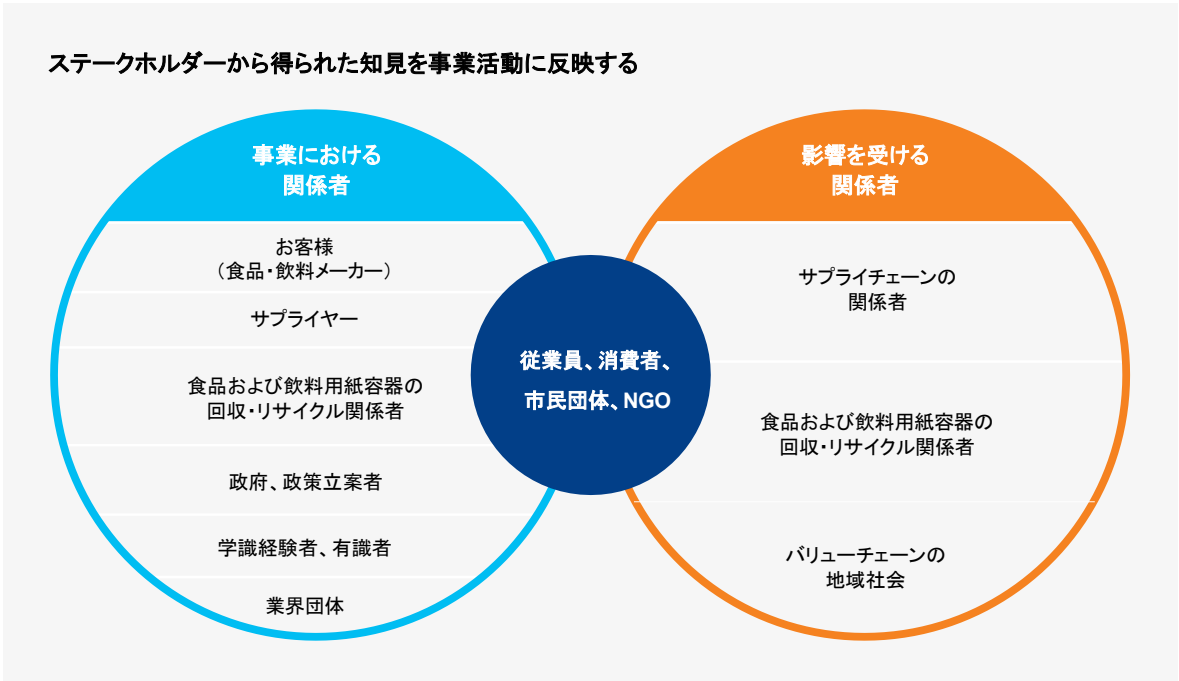


関係各所の皆様との連携

テトラパックは、グローバル企業として、従業員、お客様、消費者、サプライチェーンで働く人々、政策立案者、学術関係者など、多様なステークホルダーと関わっています。

主要なステークホルダーとの協業を通じて、テトラパックはそれぞれの視点や期待に関する貴重な知見を得ています。企業、お客様、テトラパックの製品・サービスの利用者、さらには外部有識者との協業は、事業上のリスクや機会の特定および対処に役立っています。一方で、テトラパックのバリューチェーンにおける活動から影響を受けると想定される人々との協業は、人や環境に対する負の影響をより効果的に特定し、防止・軽減するための重要な手段となっています。

テトラパックは、人権デューデリジェンス(HRDD)プロセスのすべての段階において、影響を受けると想定される関係者との連携や対話を実施しています。また、国際的な基準に則り、テトラパックは人々に対して最も深刻な影響を及ぼすリスクへの対応を優先することで、取り組みの効果とインパクトの最大化を目指しています。



テトラパックは、関係者の皆様との連携で、次の3つのレベルを中心に人権デューデリジェンスに取り組んでいます。

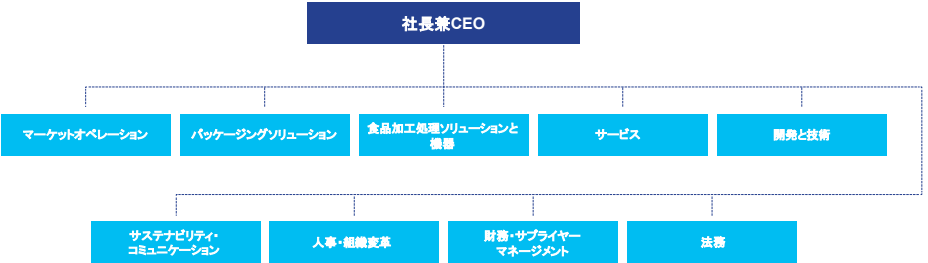
1. テトラパックの包括的な戦略策定への知見を得るため、**人権問題の専門家**との協働
2. 影響を受ける関係者が直面する課題や理解を深めるため、**信頼できる仲介組織・専門機関**との継続的な連携
3. **重点地域の影響を受ける利害関係者**との対話・協働

関係者との連携方法は多岐にわたり、対象となるステークホルダーに応じて最適な方法を採用しています。それぞれの関係者にとって、最も効果的な対話チャネルを選定するとともに、目的や期待する成果を明確にした上で取り組んでいます。バリューチェーンで働く人々や事業活動の影響を受ける地域社会との対話は、人権デューデリジェンスにおいて重要な役割を果たしています。こうした対話を通じて得られた意見や知見は、優先的に対応すべき課題の特定と今後の活動に反映されています。



ガバナンス

テトラパックの経営執行チーム(ELT)は、テトラパックの意思決定機関です。活動の範囲は、公正な立場でテトラパックの責任を検証することです。ELTは、テトラパック・グループの指導、育成および管理を担当しています。



テトラパックのコーポレートガバナンスの枠組み

テトララバル・グループ役員会は、テトララバル・グループの戦略全体、および業務運営の管理と監督に対し責任を負っています。役員会では、社長兼CEOを指名するとともに、コーポレートガバナンスの枠組み全体を承認し監視します。役員会は年4回の定例会議のほか、必要に応じて臨時の会合を開催することもあります。サステナビリティ情報開示およびESGに関するテーマは、テトララバル・グループ取締役会の議題として定期的に取り上げられており、経営戦略の策定やリスクレビューに組み込まれているほか、独立した議題としても協議されています。

テトラパックのコーポレート・ガバナンス・フレームワークは、テトラパックの戦略策定、リーダーシップのあり方、意思決定プロセス、ならびに事業運営や行動の基盤となる行動規範、活動および責任を定めたものです。テトラパックの社長兼CEOは、本コーポレート・ガバナンス・フレームワーク全体に責任を負うとともに、テトラパックおよびテトララバル・グループの方針・手続きの実施ならびに遵守徹底を担っています。

また、本フレームワークでは、テトラパックの意思決定体制についても規定しています。経営執行チーム(ELT)は、会社全体に関わる重要事項について意思決定を行い、必要に応じてテトラパック内の適切な責任者に権限を委譲します。さらに、各法人にはそれぞれ取締役会が設置されており、当該法人の事業活動および業務運営を監督する責任を担っています。

テトラパックのガバナンス体制には、エンタープライズ・リスクマネジメント(ERM)のアプローチが組み込まれています。この枠組みにおいては、各企業のリスクおよびそれらのリスクを軽減するための方針・手続きについて、経営執行チーム(ELT)のメンバーがそれぞれ責任を担っています。

また、ガバナンス、リスクおよびコンプライアンス(GRC)プロセスは、組織全体の事業運営に組み込まれており、リスクの効果的な管理・低減を支えています。さらに、「Tetra Laval Group ESG Reporting Policy and Procedure」は、グループ各事業会社における適切なESG情報開示を推進・管理するための共通フレームワークとして機能しています。

権限規定・価値観	内部統制環境	組織および意思決定体制
テトラパック責任憲章	リスクマネジメント	経営執行チーム(ELT)
コアバリュー	グループ方針・手続き・ガイドライン	テトラパック取締役会
企業行動規範	ガバナンス・リスク・コンプライアンス(GRC)プロセス	

パートナーシップと評価

テトラパックは、食品システムの変革と脱炭素化を促進するために、世界各地のさまざまな組織と連携しています。業界、学術専門機関、および市民社会などとのパートナーシップにより、イノベーションの創出、知識の共有、そして根拠に基づくソリューションの開発・普及を推進します。これらのパートナーシップの一部を図表に示します。



United Nations
Global Compact

2004年以来、UNGCの署名権者。バリューチェーン全体の人権、労働、環境、および不正防止に関するUNGCの10原則の支持を表明。



PLATINUM Top 1%
ecovadis
Sustainability Rating
JUL 2025

プラチナメダル(同期間に評価された企業の上位1%)。



SEAL
AWARDS

「Nature Approach Framework(自然に関するアプローチ・フレームワーク)」が評価され、SEAL Environmental Initiatives Awardを受賞。



RE100

ゴールドメンバーとして、責任ある調達による再生可能な電力への地球規模の移行を支援するRE100に参加。



CDP

CDPの「気候変動」分野でBスコア、「森林」、「水」分野でA-スコアを獲得、さらに2年連続でAリストサプライヤーエンゲージメントに選出。



statista

BEST EMPLOYERS
UK 2025



statista

LEADER IN
DIVERSITY
2026



THE
ADVANCED
SERVICES
GROUP

食品・飲料業界における成果運動型サービスモデルの推進が評価され、「ASG Servitization Innovation Leader of the Year」の初代受賞者に選出。



Fi Europe

粉末用テトラパック® エアジェットクリーニングシステムにより、Fi Europeの食品製造イノベーション賞受賞。



Sedex

製造拠点と直接のサプライヤー全体で責任ある調達を強化するために、Sedex Members Ethical Trade Audit (SMETA) の監査の使用延長。

	食品システム	循環型	社会	気候	自然	その他
 持続可能な開発のための世界経済人会議 (WBCSD)	●		●		●	
 グローバルデリープラットフォーム(GDP)	●					
 EIT Food	●					
 世界資源研究所(WRI)の企業協議グループ (CCG)	●			●		
 国連工業開発機関(UNIDO)	●					
 ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム		●				
 エレン・マッカーサー財団(EMF)		●				
 AIM-progress			●			
 Fair Circularity Initiative		●	●			
 The Circulate Initiative		●	●			
 ビジネススウェーデン				●		●
 Alliance for Water Stewardship (AWS)					●	
 経済産業諮問委員会(BIAC)						●
 ビジネスヨーロッパ						●
 国連グローバルコンパクト(UNGC)						●

注釈

CEOからのメッセージ

- 1. 世界経済フォーラム、「Global Risks Perception Survey Report 2025-2026(グローバルリスク報告書2025～2026)」、
<https://www.weforum.org/publications/global-risks-report-2026/>
- 2. 世界経済フォーラム、「Coming together: Sustainable growth means rethinking value.」(協力:持続可能な成長とは、価値を見直すこと)」
<https://www.weforum.org/stories/2026/01/wef-davos-coming-together-sustainable-growth-means-rethinking-value/>
- 3. UN、「目標 22: 飢餓をゼロに」<https://www.un.org/sustainabledevelopment/hunger/>
- 4. 国際連合食糧農業機関(FAO)、「FAOSTAT Analytical Brief 94: Greenhouse gas emissions from agrifood systems(農業食品由来の温室効果ガス排出量)」2024、[https://openknowledge.fao.org/ server/api/core/bitstreams/111b7ee8-282b-42ff-ad95-cccecd90f8ea/content#:~:text=FAO%2C%202024b\).-.GLOBAL,from%2024%20percent%20in%202000](https://openknowledge.fao.org/server/api/core/bitstreams/111b7ee8-282b-42ff-ad95-cccecd90f8ea/content#:~:text=FAO%2C%202024b).-.GLOBAL,from%2024%20percent%20in%202000)

ハイライト

テトラパックの約束「食品、人々、地球を守る」に向けた2025年の歩みをご覧ください。



食品システム

目標

関係各所と協働しながら、食料安全保障の継続的な向上と食品ロス・食品廃棄物の削減を推進するとともに、人々の生計向上および食料へのアクセス拡大に取り組みます。

35%

削減

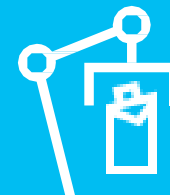
常温牛乳加工処理ラインにおけるGHG排出量*。

* 2019年ベースライン

2025年のテトラパックの成果...

92%削減

ブラジルのフルーツ生産者Tial社の新しい2ストリームアセブティック調合ラインにおける製品ロスの削減量。



6,800万人

テトラパックの学校給食プログラムを通じて、牛乳と栄養価の高い飲料が届けられた52か国の子どもたちの数。

89,200

2011年以降、デイリーハブプロジェクトに参加した小規模酪農家の数。



新しく開設された新食品技術開発センター(スウェーデン)と新製品開発センター(フランスとタイ)。

30%以上

植物由来の食品および新しい食品加工設備・技術の売上が、2023年比で増加。



循環型

目標

より持続可能な食品システムの実現に貢献するため、3つの事業領域すべてにおいて、以下のような取り組みを通じて循環型ソリューションの推進に取り組んでいます。

- 循環型素材の使用拡大、紙容器のリサイクル性向上、回収・リサイクル体制の拡充を通じて、食品・飲料用包装の循環性向上を推進。
- お客様工場におけるエネルギー、資源、および水の使用効率化に貢献する設備・機器の設計。
- 設備・機器の耐用年数の延長、耐久性を考慮した設計を推進し、その性能や稼働を維持する各種サービスの提供。

2025年のテトラパックの成果...

約

130万トン

回収され、リサイクル工程に送られた使用済みの紙容器¹。世界のリサイクル回収率の27%に相当。



1 億ユーロ



持続可能な紙容器の研究開発への投資。

43%

カーボンフットプリント
低減²

世界初の果汁飲料向けに
紙ベースバリアの発売。



¹ リサイクルのために回収される使用済みの紙容器の報告には、入手可能な場合、政府機関、登録された回収機関、全国的な企業団体、NGOなど、公式に公開された情報源のデータを使用しました。
² Carbon Trust社の検証済みのテトラパックのCO2計算ツールのモデルバージョン11(有効期間:2025_01_01)。
範囲:アルミ層と化石資源由来のポリエチレンを含むテトラ・ブリック® アセプティック容器 200mL スリム リーフ
に対して、コーティングに植物由来ポリエチレンと紙ベースバリアを含むテトラ・ブリック® アセプティック容器
200mL スリム リーフのライフサイクル全体の測定。地域:EUの業界データ。

気候

目標

テトラパックの事業運営、製品、そしてバリューチェーン全体の脱炭素化³を通じて、気候変動の緩和に取り組めます。



初めて実施した総合的な

気候と自然の連動に関するリスク評価

主要なリスクと機会の優先順位付けを実施。

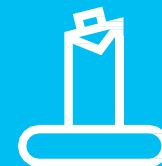
2025年のテトラパックの成果...

テトラパックが2019年以降取り組むGHG排出量の削減...



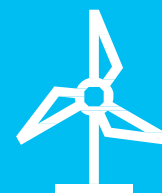
34%

バリューチェーン全体の排出削減量(2019年ベースライン)⁴。



56%

自社の事業における削減量(スコープ1、2および出張)。



97%達成

テトラパックの事業における再生可能電力の消費量(2030年の目標に向け進行中)。

3 テトラパックの脱炭素化への取り組みは、製品や運用から排出される温室効果ガス(GHG)の低減や撤廃を目指していますが、自然に配慮したソリューションや他のイニシアチブによる回収不能な残余排出量を相殺するカーボンオフセットも視野に入れています。
4 スコープ1、2および3のGHG排出量。

自然

目標

自社事業、サプライヤー、およびお客様と連携し、バリューチェーンが自然環境に及ぼす影響の低減と生態系の回復に取り組むことで、自然損失の防止と回復の実現、および世界的な水資源レジリエンスの向上に貢献します。

2025年のテトラパックの成果...

21%

対象となる施設からの
総取水量を削減(2019年
ベースライン)。



57%

削減

2019年をベースラインとして、揮発性
有機化合物(VOC)の放散削減。



**3,205
ヘクタール**



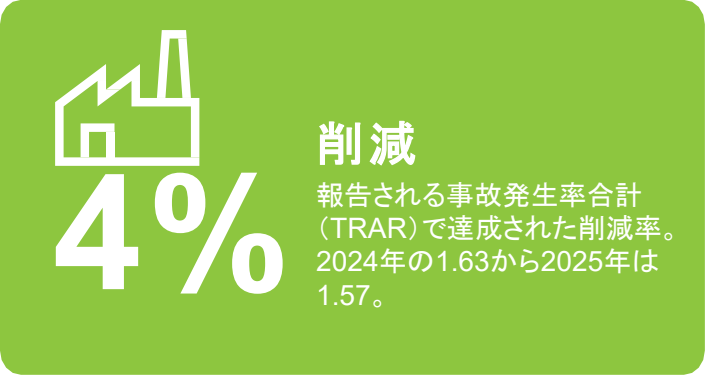
2022年以降復元中の土地の面積。
このうちの1,638ヘクタールが2025年に
追加。



社会的 持続可能性

目標

事業活動およびバリューチェーン全体を通じて人権を尊重し⁵、人々に対するポジティブな社会的インパクトの創出に取り組みます⁶。



削減

報告される事故発生率合計 (TRAR) で達成された削減率。
2024年の1.63から2025年は1.57。

2025年のテトラパックの成果...



サプライヤーの人権デュー デリジェンスの質を評価

今後、年次プロセスの一環として、サプライヤーの人権デューデリジェンスの質について初めて評価を実施しました。評価対象には、影響評価、是正・改善計画、進捗管理(トラッキング)、および苦情処理メカニズムが含まれています。



73か国の従業員が集う 年次ラーニング・カンファレンス

を通じて、急速に変化する環境で活躍するために必要なスキルと能力の開発を推進し、世界水準の人材育成・研修プログラムを継続的に実施しました。

5 人権は、私たちが人間として誰もが尊重されるための権利です。それは、国家によって与えられるものではありません。このような普遍的な権利は、国籍、性別、民族、肌の色、宗教、言語またはその他の状態にかかわらず、私たち全員に本来備わっています。人権は、最も基本的な生存権から、食糧の権利、教育を受ける権利、働く権利、健康に関する権利、自由に対する権利に及びます。出典: <https://www.ohchr.org/en/what-are-human-rights>。
6 テトラパックが目指す「ポジティブな社会的インパクト」とは、労働環境、人権差別、労働安全衛生、持続可能な生計の確保といった課題への対応を通じて、従業員をはじめ、サプライチェーンや回収・リサイクルに関わる人々、そして地域社会を含むバリューチェーン全体の人々に対し、より良い社会的成果をもたらすことを指します。

テトラパック、「大切なものを包んでいます」、テトラパック® 間接UHTユニット、テトラサーム® アセプティックVTIS、テトラブリック® アセプティック容器、
テトラ・レックス®、テトラ・ブリック®、テトラ・トップ®、C38™ およびツイストキャップ™ はテトラパックグループが所有する商標です。

www.tetrapak.com

 **Tetra Pak®**
大切なものを包んでいます